

御岳火山の歴史噴火記録の再検討 存在しなかった774, 1892年噴火の記録

False Eruption Records of the AD774 and AD1892 Ontake Volcano Eruption.

及川輝樹 [1]

Teruki Oikawa[1]

[1] 産総研・地質情報

[1] GSJ/AIST

有史の噴火記録がなく噴火が予想されていなかった御岳火山は1979年10月28日に突然噴火し、全国の活火山の見直しを促進させるきっかけの一つとなった。この噴火の後、島田(1982)により御岳火山の有史(AD774, 1892)の噴火記録が存在することが指摘され、この指摘は竹内ほか(1998)や多治見砂防国道事務所(2004)などでも紹介されている。しかし、記録を記した資料の詳細な検討は行なわれておらず、これら資料が噴火記録として妥当なものかは明らかでない。御岳火山は2006年12月末から活動を活発化しており、今後の活動を予想するうえでも過去の記録の整理・検討は重要である。今回、御岳火山の歴史噴火記録とされているものについての再検討を行なった。その結果、島田(1982)の指摘したAD774, 1892の噴火記録は誤解や創作に基づく記録で、有史の噴火記録は存在しないことが明らかとなった。

・宝亀5年(AD774)の噴火記録

島田(1982)には「森田幸太郎先生が著された『木曾史話』には、「木曾三岳村黒沢の武居神官の家に伝わる『御岳縁起』によると、宝亀五年(774)に御岳地鳴りを起し、御神火を噴出した」と記されており、」という記述があり、宝亀五年に噴火があったとしている。しかし、この記述の原典とされている森田(1968)『木曾史話』には「宝亀五年六月十三日(775年)、信濃守石川朝臣望足が御嶽に大日貴命、小彦名命の二神を祭って疫病よけはらいを祈った、と御岳縁起(天正廿年、紀元1526年にかかれたもの)にあり、その真否はともかくとして、御嶽登山は奈良朝の昔からあったものと思われる。自然崇拜や靈魂崇拜は、先史民族時代からのもので(略)、ましては時々地鳴りとともに御神火を噴出した御嶽は、古く先史民族時代から尊敬し崇拝なされた霊山であったであろう。」と記されており、宝亀五年に噴火があったとは書かれていない。なお、西筑摩郡誌(1915)には「宝亀五年六月十三日(775年)、信濃守石川朝臣望足大日貴命小彦名命の二神を御嶽山に祭りて」という森田(1968)と同様の記述があるが、これについても噴火やそれを示唆するような記述はない。

つまり、島田(1982)が宝亀五年噴火の根拠とした資料に噴火記録は掲載されておらず、宝亀五年の噴火は存在しなかったと断定できる。

・明治25年(AD1892)の噴火記録

「西筑摩郡誌」(1915)によると「明治25年4月1日御嶽鳴動」という記録がある。さらに、森田幸太郎著「木曾の明治百年」ではこの記録に「群民非常に動揺す」という記述が加えられていることから、島田(1982)は御嶽山において噴火活動があったと断定している。しかし、記録は「鳴動」とあるだけで、噴火や噴煙の記載はまったくない。「木曾の明治百年」資料は入手できず閲覧していないが、西筑摩郡誌には「鳴動」とのみ記されて噴火の記述やそれを示唆する記録は記されていない。御嶽山周辺は、最近でも有感の群発地震がたびたび起き、1984年には長野県西部地震が起きている(気象庁, 2005)。そのため、1892年の「鳴動」の記録は噴火活動であった可能性はあるが、地震活動であった可能性も否定できない。よって、明治25年の「鳴動」の記録のみに基づいて噴火活動があったとは判断できない。「鳴動」の記録はなんらかの噴火活動の記録である可能性は否定できないが、島田(1982)のように「鳴動」すなわち噴火活動と断定はできないと考えられる。

御岳火山は、日本有数の山岳信仰の聖地であり古くから宗教登山が行われている。特に18世紀末からは、それまで閉ざされていた一般信者の登山が盛んになり数多くの人々が御岳山に登っている。そのため、18世紀末以降は、御岳火山で1979年噴火ないしそれより大きな噴火があれば、何らかの形で記録が残されていると考えられる。現在のところ、そのような噴火記録は未発見である。そのため、少なくとも18世紀末以降、1979年噴火まで御岳火山の噴火活動はなかった可能性が高い。

文献:気象庁(2005)日本活火山総覧. 635p. 森田(1968)木曾史話. 改定3版, 千村書店, 187p. 西筑摩郡誌(1915)西筑摩郡誌. 西筑摩郡誌役所, 666p. 島田(1982)御嶽山 地質と噴火の記録. 千村書店, 315p. 竹内ほか(1998)木曾福島地域の地質. 5万分の1地質図幅, 地質調査所, 94p. 多治見砂防国道事務所(2004)資料集 御岳崩れ. 国交省多治見砂防国道事務所, 263p.